

# ニュースレター



長野県立こども病院だより第55号 発行日：2018年3月19日 発行者：原田 順和  
〒399-8288 長野県安曇野市豊科3100 TEL0263-73-6700 FAX0263-73-5432  
<http://nagano-child.jp/> ✉ [kodomo@pref-nagano-hosp.jp](mailto:kodomo@pref-nagano-hosp.jp)

日本医療機能評価機構  
当院は日本医療評価  
機構の認定病院です



## Contents

院長退任あいさつ	1
この人に聞く	2
ちょっと教えて	4
滋賀県立小児保健医療センター院長 就任にあたって	6
定年を迎えて	7
アコースティックギター演奏会	9
クリスマス会	9
シンガポール紀行	10
私のお気に入り	11
ビバ!マイホームタウン	12
栄養科通信	13
編集後記	13



### 長野県立こども病院理念

わたし達は、未来を担うこども達のために、  
質が高く、安全な医療を行います。

撮影：大畑淳

## “ありがとう”の気持ちを大切に!

長野県立こども病院病院長 原田順和



いよいよこの3月で25年間  
仕事をしてきたこども病院を退  
職することになる。平成5年3  
月の末に、長野市からこども病  
院の敷地内の宿舎に家族5人で  
転居してきたことを、昨日の  
ように思い出す。

こども病院はその後、大きく  
発展し、私も心臓血管外科部長  
として病院の発展に貢献できたことをうれしく思っている。  
平成23年には、勝山病院長から病院長職を引き継ぐ  
ことになり、7年間があっという間に経過した。

その間、病院職員には、機会あるごとに人と人とのコ  
ミュニケーションの大切さを訴えてきた。病院という職場  
は医師、看護師を始め、多くの職種が有機的につながって  
機能することにより、初めて患者さんのためになる医療が  
できるものだという事は、多くの人が納得するところだ  
と思う。ところが、なかなかことがうまく進むことはな  
く、日常的に病院のいろいろな部署で衝突が起こるのが現  
実である。私が病院長になってから医療相談室を開設した  
が、そこでの相談内容を見れば、いかに多くの問題が生じ  
ているかがよくわかる。

時には、医療者同士で、時には医療者と患者さんの間  
で、互いを尊重することを忘れて軋轢が生じる。そんなと

きに、少しでも“ありがとう”という感謝をする気持ち  
を、相手に示すことができれば、嫌な思いをすることもな  
く、物事は順調に進んでいくのではないかなと思う。私は、  
“がんばる”という言葉があまり好きではない。“がんばる”  
というのは、他の人を押しつけて、自分の思いを実現する  
という意味もあるものと考えているからである。病院とい  
う大きなそして複雑な組織の中で、人と人とのコミュニ  
ケーションをとって働くためには、“がんばる”よりも“あ  
りがとう”と思って人に接することが大切だと、理解して  
いる。

医療者は、こども病院で仕事をする事ができて“あり  
がとう”、患者さんはこども病院で医療を受けることがで  
きて“ありがとう”、そんな気持ちを持って毎日を過ごす  
ことができれば、笑顔も自然と出てくるであろうし、もっ  
と楽しくそして効率的に患者さんのためになる病院運営が  
できるのではないかと考えてきた。

長い間、仕事を続けてきた職場を去ることには、一抹の  
寂しさもあるが、私自身、まだこれから新しいことにチャ  
レンジしたいと思っていることが多くある。その一つ一つ  
をこなしながら、すこし距離を置いて、こども病院を見  
守って行きたいとおもう。

こども病院で仕事をする事ができて、“ありがとう!”



今回は、循環器グループの中堅バリバリとはとても思えぬやわらかな雰囲気を漂わせた、“仏の武井”こと武井黄太先生にお話をうかがってきました。趣味の話、学生時代、循環器を専門にするようになったいきさつ等々をお聞きしながら、穏やかな笑顔に癒されたひとときでした。

### ～〇〇アレルギーになりそう～

編) 武井先生は書類が多くて嫌な顔ひとつせず、ドクタークラークさんから仏の武井と呼ばれていると聞きました。

武) 書類があんまりいっぱい来るので、クラークのNさんに「アレルギーになる」と言ったら、次の日、書類の上に「アレルギー薬」と書いた付せんが貼ってありました(笑)。それ以来、Nさんの姿を見たら…避けるようにしています(笑)。

### ～人生の半分は北海道～

編) 先生は北海道出身なんですか？

武) 北海道出身ってよく言われるんですけど、実は大学が北大ということで、東京の小平市出身です。まあ、大学に行ってからはずっと北海道ですけどね。

編) 北海道の面白いところは？

武) お魚がおいしい。とにかく雪が多くて、札幌は道路が凍るので必ず転びます。慣れてはいますけどね。毎年、1年の目標は“転ばないこと”にしていました。

### ～クマに出会った？～

編) 道で転んだこと他に北海道の思い出はありますか？

武) 奥尻島とか利尻島とか行きましたし、羅臼とか知床とかクマが出そうなところにも行きました。

編) クマと遭遇したことはありましたか？

武) 実は…ないです(笑)。

### ～男子校のイケてないヘビメタ学生～

編) 学生時代の思い出は？

武) 中学、高校と男子校でした。中学の時は今より10キロほど太っていたので、イケてない学生だったんです。女子校と接触もない学生生活でしたが、クラスにバンドをやっているカッコいい友達がいるので、僕はチェロを習っていたので「だったらベースできるだろう」と声をかけられてベースを担当しました。その頃はヘビメタをバリバリ聞いていたせいか、チェロの先生に「耳が悪くなったんじゃないか？」と言われました。

いかに？」と言われました。

### ～もの心がついたときからチェロを弾いています～

武) チェロは3～4歳からやっていました。母親がバイオリンを教えていたので、気づいたら始めさせられていたというパターンです。

編) もしかして“ちるくま音楽隊”で演奏していたり？

武) はい、ちよろっと。

### ～北大オーケストラ～

武) 大学の2年目からオーケストラに入りました。大学時代はずっとそればかりやってましたね。

編) 公演があったりしたんですか？

武) 年2回ありました。あと、医学部のオーケストラっていうのもあるんですよ。全国や各地域の医学生が集まって、1週間合宿して本番演奏をするというようなことをやっていました。



大学のオーケストラ 一応真ん中が本人です

### ～お父さん、行ってらっしゃい！～

編) 病院の宿舎にいらしたころでしょうか、お子さんがすごく手を振って「お父さん、行ってらっしゃい！」って。先生もすごく大きく手を振っていた、という話を聞きました。子煩悩でいらっしゃるんですね。

武) あれは恥ずかしかったですね。今は家から出てこなくなりましてけど。子どもは男と女の2人です。

### ～隠していましたが、“鉄オタ”です～

編) 家に帰ってほっとするのはどんな時ですか？

武) 音楽を聞くとときとか、子どもが電車好きで模型を集めていて。

編) プラレールですか？

武) いいえ、もっと本物っぽいNゲージという模型です。実は僕も子どものときからこっそりと鉄道が好きで。だから、最近子どもと一緒に線路を作ったりして鉄道模型を



楽しんでます。もちろん、プラレールもいっぱい持って  
ますよ。

編) お子さんは好きな電車がありますか？

武) 僕の実家は西武線が通っていて、誕生日にその西武線  
を買ってあげたら喜んでいました。



子どもたちと 鉄分の多い長男とは良く同じ顔と言われます

### ～仕事をするなら子どもと接する職業がいい～

編) 先生が、小児循環器医をめざした理由は何でしょう  
か？

武) あんまりカッコいい理由はないです。子どもの頃に喘息  
で小児科にかかったことがあったんですが、それ以外はあま  
り医者にかかったことがなかったんです。ただ、仕事をする  
なら人と接する職業がいいなあとと思って、それなら医者がい  
いんじゃないかと考えて医学部に入ったんですよね。

小児科を選んだ理由もあんまり…。母親がバイオリンを子  
ども達に教えていて、そういったこともあって子どもと接す  
るのがいいなあと思いました。

なぜ循環器科にしたのかというのは、北海道で病院に研  
修に行ったとき、たまたま心臓外来をやっていた先生に割  
り当てられて、そのまま心臓を専門にやることになったと  
いう感じです。



北海道での勤務時代 釧路湿原



北大小児科での草野球 (本人は後列右から2番目)

### ～こんな先生の教えを受けたい～

編) こども病院に来られた経緯は？

武) 学会で活躍されている里見先生、安河内先生という有  
名な先生がいらっちゃって、2人ともしっかりした理論で  
発言されているのを見て、こんな先生に教えてもらいた  
いなあと感じていました。たまたま、北大の循環器グル  
ープのチーフに長野こどもから誰か来ないかみたいな話があ  
って、こちらに来させてもらったということです。

編) 武井先生が最初に来られたときは、まだ里見先生がい  
らっしゃいましたか？

武) 1年間だけ一緒でした。

編) 学会でもあのお二人は目立つのでしょうか？

武) まあ、その通りですね (笑)。

編) 北大に帰られてから、もう一度こども病院に戻られた  
のは？

武) それは、来ないかと呼んでいただいたので。

編) では、このまま長野こどもに骨をうずめるというこ  
とですか？

武) まあ、出て行けと言われぬ限りは (笑)。

### ～他人の言うことは信用するな～

編) 影響を受けた先生や学んだことは？

武) 安河内先生がよく言われる「他人の言うことは信用す  
るな」ですね。悪くとれば他人を信用しないということに  
なってしまうのですが、そうではなくて、誰かが言ったこ  
とを信用するのはその人に責任を押し付けることでもあ  
る、「他人の言うことは信用するな」は自分でもそれを確  
認して責任を分かち合えということなんです。悪い意味じゃ  
なく大事なことだと思います。



こども病院でのフェロー時代 里見先生もいらっしゃいました

### ～長野こどもで2年働けたのはすごい～

編) 「長野こどもに2年間いられれば、どこの病院でも勤  
まる」という都市伝説？がありましたか…

武) 確かに他のこども病院で研修した先生に、「長野で2  
年働けたのはすごい」とよく言われましたね (笑)。まあ、  
ちょっと尾ひれがついている気がしますが (笑)。

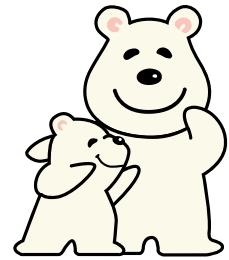
### ～まずは地域の患者さんをしっかり診ることから～

編) こども病院の小児循環器をこうしたいと考えていることはありますか？

武) 以前ほど日本各地から患者さんが来るとい時代ではなくなっていると思うのです。まずは地域の患者さんをしっかり診させてもらって頑張れたらなあと思います。

編) 本日はありがとうございました。

インタビュー：西沢博子 平林富子



## ちょっと教えて

vol.4

# 「GACしろくま図書館」で、どんなところ？



GACしろくま図書館の入口



スタッフの久野さん(左)と吉岡さん(右)

GACしろくま図書館は南棟一階の中庭を望む日当たりいい場所にあります。廊下から眺めるとカウンターや本棚が並んでいる室内が目に入りますが、真の姿を知っている人は意外に少ないかもしれません。というわけで、私たち編集部がスタッフの久野さんと吉岡さんにじっくりとお話をうかがってきました。

### ～いやされる場所を目指して～

編) しろくま図書館はどんな場所ですか？

し) 初代のしろくま図書館ができた2007年当時から「病院の中の異空間を作る」という目的がありました。院内図書館というのは病院それぞれの目的がありますが、ここは院内の癒しの場所、ほっとするような場所を目指して運営しています。

### ～木の香りがする空間～

編) 初めてしろくま図書館に入ったのですが、内装が素敵ですね。

し) しろくま図書館は当初、今のあひるコーナー(入院案内)にありました。2度の引っ越しの後、GAC、今のデンソーエアークールという企業さんから寄付をいただいて、県産木材の床、カウンター、椅子などでできた「GACしろくま図書館」が2012年秋に完成しました。

編) 患者さんからの評判も良さそうですね。

し) 初めて入って来られたとき「木の香りがする」と言って下さる方もいて、今も微かにひのきの香りが残っているのかもしれない。

### ～大勢のボランティアに支えられています～

編) 「異空間、癒しの場」というお話の通り、病院とは





長野県産材を使った家具



館内の掲示板「今月のおすすめ」

ちょっと違う静かで過ごしやすい場所だと感じました。図書館で活動されている方は、どなたが中心ですか？

し) ボランティアコーディネーターの久野、吉岡の2名で蔵書の管理をしています。その他に図書館ボランティアの方たちが活躍してくれていて、貸出の手続き、本に透明なブックカバーをかける仕事、本の種類に応じてシールを貼る作業、季節に合わせた飾りつけの折り紙作りなどもしてもらっています。今は大勢のボランティアさんに支えられています。

#### ～子ども病院独特の本の分類～

し) 本の分類は子ども病院独特の分け方をしています。病気に関わる本もありますし、障害を抱えたお子さんについて学ぶことができる本などもあります。公立の図書館とは違うここならではのジャンル分けをしています。

#### ～ベッドサイドでの貸出もします～

編) ワゴンに本を載せて病棟を回っている姿も見かけます。

し) 1ヵ月に1回、安曇野市中央図書館から団体貸し出しの本が70冊届きます。その本や季節に合った本を選んで月1回病棟に貸出に行っています。貸出もベッドサイドでできますし、返却も各病棟のプレイルームでできますので、患者さんから長時間離れたくない付添いの方にも喜ばれています。

#### ～病院ではコミックや短い読み物が人気～

編) それは便利ですね。おススメの本などあれば教えてください。

し) 短編小説やエッセイ、コミックが人気ですね。自分用ではなく、お子さんのために絵本を借りていくお母さんも

多いです。絵本コーナーに、季節に合わせた今月のおすすめが並べてあります。

#### ～職員の方もどうぞ遠慮なく～

編) 職員も使えますか？

し) 「私たちも借りていいの？」という人が多いですが、ぜひ利用して下さい。

編) 専門書などもありますね。

し) 最新の本という訳ではありませんが…

#### ～静かなので勉強をしたい子もきます～

編) 県内産の木を使っているせいか、落ち着いてお話ができますね。

し) とんりが脳波の検査室ということもあって、静かに過ごせるように内装を工夫してあります。病棟から息抜きにきたり、勉強をするために来る子もいます。床に座る場所もありますよ。

#### ～蔵書は2,000冊以上～

編) 最後に、一言PRをお願いします。

し) 蔵書は2,000～2,500冊ほどあります。病院に関わる方なら、どなたでも利用いただけます。平日の9～17時に開館しています。ぜひ、気軽にお越しください。

インタビュー：石坂俊也 牧内里衣 宮澤敦子

## 20~30年先を見越した素晴らしい施設を目指して



この度、当院へ赴任する前に所属していた滋賀県立小児保健医療センターに再び戻ることになりました。2年間という短い期間で、ほとんど何もできないままに異動となりましたことをまず皆様にお詫び致します。温かく迎え入れて下さいました原田院長をはじめ医局の先生方、外来・病棟、リハビリテーション科の皆様、そしてとりわけ同僚の松原先生、酒井先生にはたいへんお世話になりました。誌面をお借りして深謝いたします。ありがとうございました。

信州での生活は予想以上に快適で、生活環境や周りを取りまく自然の美しさに癒され、日々過ごしやすさを感じていました。この地を離れるのはとても残念ですが、第2の故郷のように感じておりますので、これからも休日や仕事の関係で連携がとれるようであれば、ちょくちょくまた来たいと思っています。

さて、今回、戻ることになった滋賀小児センターは前身の県立小児整形外科センターより1988年に新設された施設で、全7科（小児・小児精神・整形・耳鼻・眼・麻酔・リハビリテーション科）100床から成るコンパクトな県立病院です。別棟には療育部（通所療育・リハビリ施設）と県立養護学校が併設されています。今年築30年を迎え、各所に不備や老朽化を生じてきていることもあり、数年先（H36）に隣接する成人病センターへ新築移転、合併して滋賀県立総合病院となることが予定されています。

今回の異動に関しては、長野へ来て半年ぐらいの頃、統合のかじ取り役としての院長を依頼されたことが始まりでした。そもそも長野に来たのは臨床を主体に仕事をするためでしたので、当初随分無理な話であると思い、断るつもりでいました。しかし、いろいろな方面からの様々な力がかかり（?!）、かなり悩んだ末に受け入れることにしました。

自分が長野に来てまず思ったことは、病院の形式から言えば、長野こどもは総合的な小児施設であり、デパートのようだという事です。一方、滋賀小児センターは科をしばって特色を持たせた専門店に例えることができます。それぞれ強みと弱みがありますが、公的病院特有の問題（ルールが多く融通がきかないetc.）では共通していたと思います（すみません）。こうした幾分お役所的な公的

病院の院長には当然たいした権限もなく、ご承知のように決して楽しい仕事ではないだろうと覚悟しています。それでも今回オファーを受けたのは、「20~30年先をみて、素晴らしい施設になるよう新築統合に向けて頑張ってもらいたい」という県の強い要望があったからでした。

長野での経験を生かして、どのようなスタイルがこれから直面する少子化社会にうまく適合できるのか、自分なりに考え、公立ではなく効率を重視した新病院を、職員・患者さんの意見を反映させて構築していきたいと考えています。

皆さま、2年間お世話になりました。また、ニュースレターに3回も出していただけたことも幸運でした。これからもどうぞよろしく願いいたします。See you next time!



滋賀小児センターの全景

長野こどもとデザインは似ていますね(?)

道路を挟み手前が療育部と県立養護学校（屋根付き歩道橋で連結）。右手奥は職員官舎。そのずーっと向こう（奥）に琵琶湖があります。



早春の海津の桜と竹生島



琵琶湖上のパラグライダー



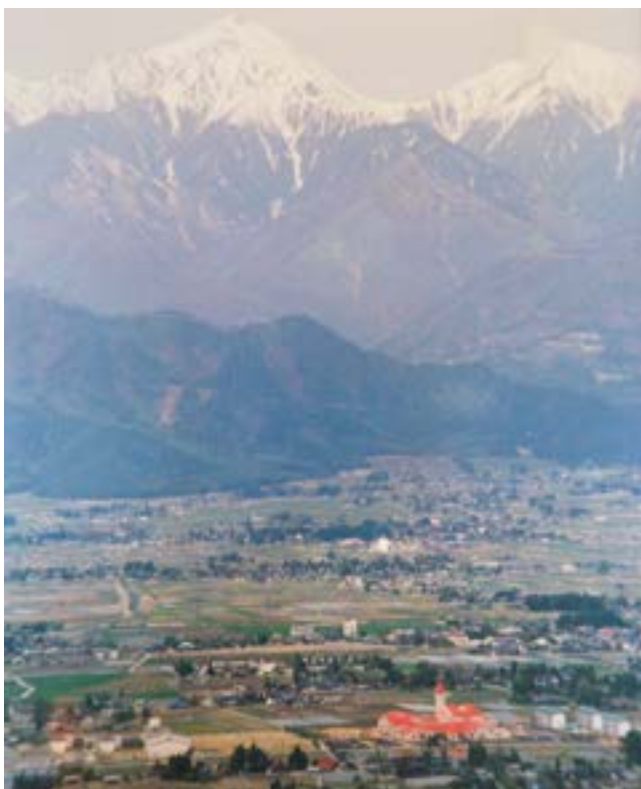
## 定年を迎えて - 開院から今日までの歳月を振り返る -

麻酔科部長 大畑淳



これからする話は約25年前からのことですので、少しの間違いや誇張があることをお許しください。私が当院に就職するにあたってお世話になった、故清野先生（当時信大麻酔科教授）、小田切先生（同信大助教授、後教授）、宮坂先生（同国立小児病院麻酔科部長、後当院院長）と羽鳥先生（同千葉県こども病院麻酔科集中治療科部長）及び家族に感謝しています。

千葉県こども病院から平成5年に赴任しました（写真①）。当時のスタッフの中にはよく知っている医師が意外と多くいました。田村新生児科部長、原田心臓血管外科部長、石曾根小児外科部長、信大同級生の小児外科大倉君（写真②）、循環器安河内先生、臨床工学の金子さん、国立小児病院で一緒だった太田副院長などです。さらに川勝院長（写真③）とは長野日赤で1年間一緒に働きました。このとき小児の人工呼吸管理に少し関与したのですが、私のことは覚えていないとのことでした。千葉県こども病院から長野に就職したのは私と小松（NICU看護師 旧姓今井）さんの二人です。開院の前年、準備委員の人たちが千葉県こども病院に見学に来られた夜の歓迎



①5月になっても常念坊が現れない寒い年



②向かって右が小児外科の大倉先生



③川勝院長と服部総師長、後ろは石曾根先生

会の席で私は酔いつぶれてしまい、当時薬局長予定だった田本さんにタクシーで自宅まで送っていただいたこともありました。

麻酔科は私と水戸野の医師2名でスタートしました（写真④）。1例目の麻酔症例は開院5日目、小児外科の悪性腫瘍手術で、2例目は急性虫垂炎の緊急手術でした。また、心臓血管外科1例目の症例は新生児総肺静脈還流異常症の緊急開心術でした。手術麻酔枠は循環器の心カテ検査も含んでいたため、心カテ1例目は予定検査でしたが、その日のうちに肺動脈狭窄症の緊急バルーン拡張術があるなど、十分な準備期間の後で簡単な予定手術から始めるという計画は消え去りました。

2年目からは形成外科、整形外科、脳神経外科が開設され、麻酔科医も4人体制になりました。新科の手術は連休明け5月からの予定でしたが、1例目は4月末の東良さん（外来看護師）のお子さんの緊急形成外科手術でした。産科の診療は平成11年からですが、当院における最初の帝王切開は開院直後の平成5年7月、胎児の心疾患（重度の大動脈弁狭窄症）のために出生直後に治療が必要と、豊科日赤（現：安曇野日赤）がスタッフや材料を持ち込んで場所だけ提供する形で行いました。しかし、帝王切開の術中管理は当院の水戸野、赤ちゃんのカテー



④手術室スタッフと水戸野医師

テル治療の術中管理は私が担当しました。手術室や外来スタッフのおかげで無事終了しました。

赴任当初から、私は当時の川勝院長に小児専門の病院ではなく、遺伝や成長の観点から総合病院の中か近くに作らないとだめだと言ってきました。また、救急外来の必要も訴え、救急外来準備委員会の設置を計画しましたが、残念ながらそれは実現しませんでした。川勝院長は長野医報に『1年たった県立こども病院』のタイトルで各科の状況について書かれましたが、麻酔科をお忘れになりました。しかし、その中の病院のこれからの部分では麻酔科のことも述べられています。また、私が川勝先生に言っていたことを他県での講演で話されたとも聞きました。

麻酔業務以外では、ICU医長、在宅人工呼吸管理など担当しました。ICUの1例目はライ症候群で、入室後に心停止となりましたが蘇生することができました。最初の在宅人工呼吸患者は睡眠時無呼吸症候群でした。日本製で最初の在宅呼吸器パピーⅡを使用しましたが、レンタルの予算がないことから当院で購入し、在宅での維持管理は私が行うことになりました。

当院に赴任するまで、平日はなるべくアルコールを飲まないことにしていました。しかし、約2ヵ月の開院準備期間は診療の責任がないという安心感と時間通りに帰宅できることから毎日飲むようになり、その後も25年間、当直日等以外はアルコールを飲むという悪習慣がはじまりました。お酒以外の楽しみもたくさんありました。ゴルフ同好会を石曾根先生や田本薬局長、技師さん、看護師さんと作り、川勝杯という名で平成5年から大会を行いました。ちなみに初回の優勝者は私でした。麻雀大会もあり、麻雀中に緊急手術の連絡が入るということもありました。当時から松本市岡田に住んでいたのも、初めてママチャリで通勤して病院から帰宅する途中、蟻ヶ崎の坂を上ったところで足が痙攣を起こして30分間動けな

くなったことがありました。これ以後、軽いロードレーサーを買って天気のよい暖かい日に自転車通勤をするようになりました。テニスはほとんど経験がなかったので、田村先生などからの誘いもあって早朝テニスに参加するようになりました。冬は当然スキーで、土曜午後、森山（ICU看護師、旧姓荻久保）さん運転の車に乗って鹿島槍などに行った記憶があります。スキー同好会の仲間と白馬（五竜など）、野沢温泉などに泊まりがけで行きました（写真⑤）。海釣りといえば、小児外科百瀬先生のグループに参加して糸魚川漁港（ほんとは釣り禁止）に何度か行きました。一応の成果があったものの、夏に一人で行って脱水になってから自粛していました。最近は川釣りにハマりつつあります。ランニングは尿路結石を落とす目的で始めました。ただし、効果は疑問です。開院以来、我が家で手術室スタッフと年1回焼き肉パーティーをしていましたが、最近は蕎麦パーティーにかわりました（写真⑥）。このように仕事も余暇も、東京や千葉時代より楽しく過ごすことができました。



⑤道祖神祭り



⑥初蕎麦パーティー 私の誕生日

この間、病気も何度かかかりました。開院準備期間中に腰の痛みで2日間くらい動けなかったときは医者の不養生で受診せず、後になって尿路結石、それも腎盂結石によるものと判明しました。これは私が会長をした小児



麻酔学会の直後に発症し、長野市民病院でレーザー治療を受けました。学会中でなくて良かった。開院3年目5月の連休、生のホタルイカを食バイレウス（寄生虫が原因）となり、こども病院に入院した職員の第1号となりました。診断は小児外科の百瀬先生がされましたが、腹痛止めのソゼゴンが15mgと聞いたとき思わず少ないと叫びました。連休が明けて予定手術が始まると、まだ入院中で食事も進んでいないために点滴をぶら下げながら麻酔を行いました。ピロリ菌除菌中インフルエンザに罹患し、知り合いの内科医師からアマンタジンをもらい解熱したこともありました。また、左右の四十肩でゴルフを、札幌での右小指開放性脱臼で自転車とチェロをやめました。

研究会、学会については、長野県小児麻酔症例勉強会を平成6年1月から年1回当院で開いています。第2回小児専門施設手術室ネットワークを平成9年7月に豊科保健センターふれあいホールで、第14回甲信ICUセミナーを平成10年8月に安曇野スイス村サンモリッツで、日本小児麻酔学会第15回大会を平成21年9月に長野県松本文化会館で開催しました。お手伝いいただいた当院関係者の皆様に感謝します。

病院スタッフ皆様のおかげで無事職責を果たし、大きな事故なく診療ができたことに感謝します。25年間ありがとうございました。

## アコースティックギター演奏会 byウツミ

ウツミさんのアコースティックギター演奏会を、1病棟と2病棟で1月29日に開催しました。ウツミさんは多数の県内イベントで演奏経験があり、当日もギターをつま弾きながら曲の紹介をしたり、ディズニー、ジブリ、アンパンマンなど、子供たちが好きな曲を演奏したかと思えば、付き添いのお母さん達の心に響くほっとする大人向けの曲でライブハウスの様な空間を作りあげるなど、とても楽しい時間を過ごすことができました。ウツミさん、素敵な演奏会を開催してくださり、ありがとうございました。

(ボランティアコーディネーター)



## クリスマス会

レクリエーション委員会は、患者さん、ご家族と病院スタッフがふれあい、少しでも入院生活に潤いを与えられるように、七夕会、夏祭り、クリスマス会などの季節の行事を企画しています。

今年のクリスマス会は、ちょっと早いクリスマスでしたが12月22日（金）に行いました。院内学級の演奏、大型絵本の読み聞かせ、ボランティアで来られたスマイルさんのピアノとバイオリン演奏など、クリスマスらしい素敵な催しがたくさんありました。車イスやベッドのままのお子さんご家族、おなかの中の赤ちゃんが一緒のお母さん達など多くの方が参加してくださり、明るくて楽しいクリスマス会になりました。最後は保育士さんのかわいい踊りをみながら、みんなでクリスマスソングを歌いました。

レク委員会は、保育士さんを中心にエントランスホー

ルのクリスマスツリーの飾りつけも行っています。こども病院を訪れる方やクリスマスを病院で過ごす患者さん達に、少しでも癒される時間や楽しい気持ちを持ってもらえればと願いながら活動しています。

(吉原恵美)



昨年6月から11月まで、シンガポールで病院研修をしてきました。長野県立こども病院の職員院外研修システムを利用した半年という短い期間ではありますが、シンガポールで経験したことを数回に分けて紹介していきたいと思います。かなり主観も入った内容となっていますので、その点に関してはご了承ください。

## ～シンガポールの研修病院～

研修した病院は、小児の一般外科手術を行っている National University Hospital (シンガポール国立大学病院: NUH) と KK women's and children's Hospital (KK女性と子供のための病院: KKH) の2施設です。今回の研修では手術に参加できる立場で申請して研修をおこないました。朝は回診から始まり、病棟業務を手伝ったり、手術に参加したり、外来見学をしたり、当直にも参加して日本と同じような生活を送っていました。

## ～日本とはこんなに違う病院の内側～

次に日本とシンガポールの病院事情の違いを紹介したいと思います。



KK女性と子供のための病院 (KKH) の外観

一つ目は診療体系です。シンガポールでは自由診療が多く行われていて、公的医療機関であっても自由診療と保険診療が混在していました。治療費もそれぞれの病院で異なりますし、シンガポール人と外国人でも異なります。そのため、同じ病院の医師であっても給与が全く異なっていました。ちなみに一番給与が高い科は形成外科と大腸外科(成人)ということでした。

二つ目の違いは、シンガポールでは職種内で細かく階級が分かれていることです。例えば医師では上からシニアコンサルタント、コンサルタント、アシスタントコンサルタント、シニアレジスター、レジスター、アシスタント、メ



KKHの小児外科医とともに外出しての昼食  
(シンガポールのローカルフード肉骨茶: バクテー)

ディカルオフィサーと細分化されていて、仕事内容も異なります。診断や治療の選択などはコンサルタント以上の医師とともに行うことが原則となっていました。

## ～仕事は食べ物とともにあり?～

もう一つの違いとしては、食事への配慮が手厚いことです。ちょっとした申し送り(会議)でも何か食べながら行います。カンファレンスでは早朝にも関わらず、必ず、食事とデザート、飲み物が



早朝のカンファレンスに  
準備される食事とデザート

準備されていました。手術室も昼食が準備されていたことから、手術間の短い時間にも食事を摂ることができるのは外科医として嬉しいことでした。昼食を食べに外出することも多く、色々と美味しいお店を紹介してもらいました。

## ～文化の違いを感じた“気軽な受診”～

最後は患者さんの受診についてです。KKHでは1日約400人もの患者さんが救急外来を受診されます。そのうち、100人程度が入院になります。一方で、外来予約のキャンセルはとて多く、予約の1/3程度の方が特に連絡もなく来院されません。受診するのもキャンセルするのも気軽な印象でした。同じアジア人でありながら、色々と文化の違いを感じた研修でした。



# 第8回 私のお気に入り

—能登島の筏(いかだ)釣り— 看護部 鬼澤典朗

4月から11月は、能登島での筏釣りシーズンです。

松本から車で数時間かかりますが、道中、仲間と釣り談義をしているとあっという間に到着します。  
筏に乗って早朝から夕方まで釣りをした後は、能登島の民宿で季節の料理をいただきながら翌日の作戦会議です。



ウグイスやキジの声を聞きながら…  
イルカやカモメもやって来ます



何でも釣れます!!



釣った魚はおいしくいただきます  
(白身魚ばかりですが)



皆さんも  
始めてみませんか?

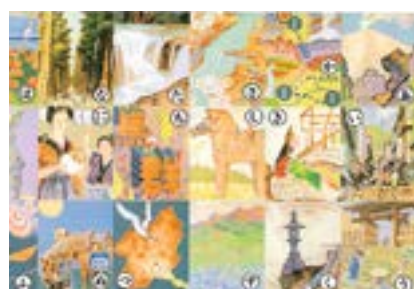
# ビバ!マイホームタウン 後期研修医 内田恵理子

しろくまニュースレターをご覧のみなさまこんにちは。後期研修医の内田恵理子です。今回のビバ!マイホームタウンは、私の出身地である群馬県についてご紹介させていただきます。

といっても、群馬県なら長野県の隣県なので遊びにいったことあるよ〜という方も多いと思います。某ゲームや某漫画では「グンマー」と親しまれ、原住民が住んでいるらしいとまことしやかに囁かれる当県（ネタが古いかな?）について、ちょっと知っておくと使える（かもしれない）群馬県の「へえ〜」ポイントを幾つかお伝えできればと思います。

## ～聞けばだいたい県民が答えてくれる“上毛かるた”～

幼少期に覚えるカルタ遊びといえば「百人一首」がメジャーなようですが、群馬県では県内全域を「上毛かるた」が支配しています。このかるた、いわゆる郷土かるたと呼ばれるもので、名前からもマイナー感がにじみますが、県内では県民のアイデンティティを構築する存在といっても過言ではありません。県内の小学生は、毎年校内で開か



上毛かるた 絵柄もなかなか素敵です

近くに群馬県出身のひとが居たら「つる舞う〜」と呼びかけてみてください。当県民、たいへん喜びます（たぶん）。それぞれの札で県内の名所や偉人を取り上げていますので、群馬県をもっと知りたい!という方もどうぞ。

## ～群馬県が誇る詩人“萩原朔太郎”～

長野県からもたくさんの文士が生まれていますが、当県自慢の方と言えばやっぱり詩人、萩原朔太郎です。詩集「月に吠える」に収められている『竹』や『猫』などは、あ〜国語で習ったなあという方も多いのではないのでしょうか。作品からは非常に難解な人物、という印象を持たれると思いますが、そんなことはなく、恋人に手作りの詩集を送ってみたり、手品が大好きだったり、マンドリンを弾くのが得意だったり、え〜そうなんだあ、フフフ〜という逸話がたくさ



朔太郎がかっこよくたざむ  
前橋文学館

んあります。「前橋文学館」はそんな萩原朔太郎を全力でプロデュース(?)する素敵な文学館です。ぜひ前橋に来た時はお立ち寄り下さ〜い!

## ～県民が愛するゆるキャラ“ぐんまちゃん”～

黄色い二等身のまるいフォルム、ちいさいオメメ、馬だけど二足歩行、かわいい…。

ぐんまちゃんがゆるキャラグランプリを勝ち取った年の群馬は、あちらこちらで「ぐんまちゃんに投票しよう!キャンペーン」が行われ、職場でも上司が日々欠かさず投票をしていたりして、ぐんまちゃん愛に満ち満ちた年でした。高崎駅にはぐんまちゃんグッズオンリーのお店もあり、当県一番のアイドルです。そんな、愛されぐんまちゃんですが、実は複雑な過去があつて…なんと「初代ぐんまちゃん」なる存在がいるんです。その過去を知りたい方は…ネットで調べてみてください…。



高崎駅構内で  
かわいさを振りまく  
ぐんまちゃん

## ～時によって胃腸を破壊する“濃厚豚骨ラーメン”～

群馬県の特産品といえば、下仁田ネギ、下仁田こんにやくに孀恋高原キャベツ、ソウルフードとして焼きまんじゅう、おきりこみ、峠の釜めしなどがあがりますが、ラーメン界隈では「群馬といったら豚骨ラーメン!」というのが常識(らしい)です。確かに、県内の有名ラーメン屋さんへ連れてゆかれた学生時代、食べたラーメンはほとんどが豚骨…それも、脂がどか〜んとつた濃厚豚骨ラーメンでした。胃腸が弱い時に挑むと、脂に弾き返されて負ける。たとえ完食したとしても、この先一カ月はラーメン食べなくていいや…とやはり負け戦になる(どっち?)。それでも、しばらくするとまた食べたいなあと思ふと、そんな美味しさです。おすすめ店はやっぱり「だるま大使」さんでしょうか。ラーメン好きの方は、ぜひチャレンジを!



ラーメンの写真を  
ゲットできなかったので…  
かわりに“高崎だるま”

草津温泉や富岡製糸場の力を借りずに群馬県の紹介ができるか、無謀な

トライをしたビバ!ホームタウンでしたが、見事に玉砕した気がします。ここまで読んでくださってありがとうございました(笑)。久々に群馬のことをたくさん考えて楽しい時間を過ごせました。ひとつでも愉快的な「へえ〜」がお届け出来ていれば嬉しいです!



管理栄養士の久保早苗、山田絢子、松浦桂子の3名と、神経小児科の福山哲広医師が共同で発表した「ミオクローニー失立発作てんかん3歳児にケトン食療法を導入した症例について」が、第40回長野県栄養改善学会で学会賞を受賞しました。

ある種類のとんかん（ミオクローニー失立発作てんかん）の患者さんは、ケトン食療法という特別な食事療法でけいれん発作を軽減することができます。しかし、この食事は脂肪が多く炭水化物が少ないため、大抵の患者さんはこの味になかなかなじみません。特に幼児の場合、一度この食事療法を始めて失敗すると、それ以上続けることが難しくなります。

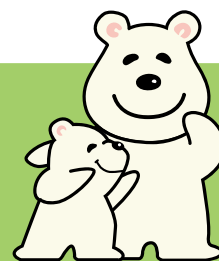
今回の学会で発表した事例は、患児・家族の皆さんがよく理解されて協力的であったこと、食事の栄養計算ができたこと、市販の低糖質食品を上手に使うことで患児の好みにあった献立ができたこと、食事の盛り付けやおやつの種類を工夫したことなどにより、順調にケトン食療法を続けてけいれん発作を抑えることができました。

学会賞を受賞して、発表者である栄養科職員や医師の連携のみならず、多くの病院スタッフが患者さんの力になり最善の医療が提供できたと改めて実感しています。

これからも職員全体でより一層の取り組みを行い、これまで以上の医療を提供できるよう努めてまいります。



「しろくまニュースレター」のバックナンバーは  
長野県立こども病院ホームページ  
([http://nagano-child.jp/overview/public\\_relations](http://nagano-child.jp/overview/public_relations))  
でご覧になれます



## 編集後記

水と油という表現があります。互いに全くなじめないことのたとえですが、水に溶けないことが油（脂質）の定義ですから当たり前です。実際ドレッシングをこれでもかと混ぜても、すぐに分離してしまいます。では脂質が水に溶けたらどうなるのでしょうか？お腹についた脂肪なんて運動して燃やさなくても簡単に溶かし出せそう…などと気楽なことは言ってもらえません。私たちの体は脂質の膜でできた細胞の集まりなので、脂質が水に溶けたら形がなくなってしまいます。生き物というのは水に浮かぶ油の塊のようなものなんですね。人間の社会も似たようなところがあります。周囲を見渡せば油（水？）のような人達がきつと目につくはず。油あってこそ水、水あってこそ油、良くも悪くもドレッシング、これは人が入れ替る今の時期に必要な心構えなのかもしれません。

小木曾

長野県立こども病院 外来医師担当表

平成30年3月1日現在

外来名	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
整形外科	二見 徹	高橋 淳 (PM) (第2・4)	松原 光宏 二見 徹 加藤 博之 <sup>※1</sup>	松原 光宏(AM) 酒井 典子(PM)	松原 光宏 二見 徹(AM)
小児外科		好沢 克(AM) 畑田 智子(AM) 高見澤 滋(PM)	高見澤 滋(PM)	畑田 智子(AM) 好沢 克(PM)	服部 健吾(AM)
眼科	北澤 憲孝 視能訓練	視能訓練	視能訓練	北澤 憲孝 視能訓練	北澤 憲孝 視能訓練(AM)
総合小児科	南 希成(AM) (PM4時~5時予防接種相談)	樋口 司	樋口 司(PM) 南 希成(PM) (ワクチン接種)	南 希成(AM)	樋口 司(AM)
総合小児科 アレルギー外来	小池 由美(PM)		小池 由美(AM)		
血液腫瘍科 免疫・アレルギー外来			小林 法元(AM)		
血液腫瘍科 血液・腫瘍外来	坂下 一夫 倉田 敬	坂下 一夫(AM)	坂下 一夫(AM) 齋藤 章治(PM)	坂下 一夫	倉田 敬
循環器科 (内科・外科)	岡村 達(AM) 上松 耕太(AM) (外科)	安河内 聡 瀧間 浄宏 内海 雅史 (内科)	原田 順和(AM) 岡村 達(AM) 上松 耕太(AM) (外科)	安河内 聡 瀧間 浄宏 武井 黄太 (内科)	武井 黄太 内海 雅史(PM) (内科)
循環器科 成人移行期外来		元木 博彦(AM) (第2・4)			
リハビリテーション科					三澤 由佳(AM)
精神科 こころの診療科			山田 桂吾(PM) (第2)		篠山 大明 <sup>※2</sup> (再診のみ)
脳神経外科	重田 裕明 金谷 庸平	重田 裕明 金谷 康平		重田 裕明 金谷 庸平	
泌尿器科 皮膚・排泄ケア外来	市野みどり		市野みどり	市野みどり(AM)	市野みどり(PM)
神経小児科	稲葉 雄二 (午前は発達障害専門外来) 福山 哲広 山内 翔子(PM)	稲葉 雄二 (午前は発達障害専門外来) 福山 哲広(PM) 平林 伸一	稲葉 雄二 山内 翔子(AM) 服部 有香(PM)	山内 翔子(PM) 服部 有香(PM)	稲葉 雄二 福山 哲広
小児外科					高見澤 滋 (胃瘻・中心静脈栄養外来)
新生児科	亀井 良哉(AM) 中村 友彦(PM)	中村 友彦	関 聡子	廣間 武彦	宗像 俊
形成外科	野口 昌彦 矢口貴一郎(AM) 星野 夕紀(AM)	安永 能周(AM) (第4)	野口 昌彦 矢口貴一郎 星野 夕紀	野口 昌彦(PM)	野口 昌彦(PM) 杠 俊介(PM) 矢口貴一郎(PM) 永井 史緒
総合小児科		竹内 浩一 (内分泌・代謝)	中山 佳子(AM) (第1)(消化器) 水城 弓絵(AM) (第2)(内分泌)	竹内 浩一 (内分泌・代謝)	竹内 浩一(AM) (内分泌・代謝)
麻酔科	大畑 淳(AM)				大畑 淳(AM)
遺伝科	古庄 知己 (AM11:00~)			高野 亨子(PM) (第3)	
耳鼻咽喉科	佐藤梨里子	佐藤梨里子	佐藤梨里子	佐藤梨里子	北尻 真一郎(AM)
循環器小児科 胎児心臓外来		武井 黄太	安河内 聡	安河内 聡	瀧間 浄宏
産科	吉田 志朗 高木紀美代	吉田 志朗 高木紀美代	吉田 志朗 高木紀美代	吉田 志朗 高木紀美代	吉田 志朗 高木紀美代
リハビリテーション科	五味 優子(AM) 三澤 由佳(PM)	三澤 由佳(AM) (第1・3) 五味 優子(AM) (第2・4) 三澤 由佳(PM)	関 千夏	原田由紀子 村田マサ子(AM)	三澤 由佳(PM)

※1 整形外科の加藤医師は3ヶ月に1回第3週のみ診察となります。

※2 精神科(こころの診療科) 篠山医師は、再診のみです。外来の初診受付していません。

★診察時間：午前9時～午後4時  
★休診日：土・日曜日、祝祭日、年末年始  
★受診には、原則として予約が必要です。

予約専用電話  
**0263-73-5300**